

## 第3章 Brown 運動に関する確率積分

### 3.1 連続時間のマルチンゲール

$(\Omega, \mathcal{F}, P)$  を確率空間とし, フィルトレーション  $(\mathcal{F}_t)_{t \geq 0}$  が右連続性:

$$\mathcal{F}_t = \mathcal{F}_{t+} := \bigcap_{u > t} \mathcal{F}_u$$

をみたすものとする.

**定義 3.1** フィルトレーション  $(\mathcal{F}_t)$  をもつ確率空間  $(\Omega, \mathcal{F}, (\mathcal{F}_t)_{t \geq 0}, P)$  において, 確率過程  $X(t) = X(t, \omega)$ ,  $t \geq 0$  が  $(\mathcal{F}_t)$ -マルチンゲールであるとは,

(i)  $E[|X(t)|] < \infty, \quad \forall t \geq 0,$

(ii) 任意の  $t > s \geq 0$  に対して

$$E[X(t) | \mathcal{F}_s] = X(s) \quad P - a.s. \quad (3.1)$$

が成立する時にいう.

**注意** 離散時間のときと同様に, 上の条件 (ii) は次の (ii)' と同値である.

(ii)' 任意の  $t > s \geq 0$  と任意の  $B \in \mathcal{F}_s$  に対して

$$\int_B X(t, \omega) P(d\omega) = \int_B X(s, \omega) P(d\omega) \quad (3.2)$$

**Brown 運動のマルチンゲール性**

後の便宜のためにフィルトレーション  $(\mathcal{F}_t)$  に関する Brown 運動を定義する.

**定義 3.2** 確率空間  $(\Omega, \mathcal{F}, (\mathcal{F}_t)_{t \geq 0}, P)$  において, 確率過程  $B(t)$  が,  $(\mathcal{F}_t)$ -Brown 運動であるとは,

- (i) 任意の  $t \geq 0$  で  $B(t)$  は  $\mathcal{F}_t$ -可測 (これを  $(\mathcal{F}_t)$ -適合という) .
- (ii)  $B(0) = 0$   $P - a.s.$
- (iii) 任意の  $t > s \geq 0$  に対して,  $B(t) - B(s)$  は  $\mathcal{F}_t$  と独立で, 平均 0, 分散  $t - s$  の Gauss 分布となる .

定理 3.1  $(\mathcal{F}_t)$ -Brown 運動  $B(t)$  は  $P - a.s.$  で次を満たす .  $0 \leq s < t$  とする .

- (i)  $E(B(t) | \mathcal{F}_s) = B(s)$ , つまり  $B(t)$  は  $(\mathcal{F}_t)$ -マルチンゲール .
- (ii)  $E(B(t)^2 - t | \mathcal{F}_s) = B(s)^2 - s$ , つまり  $B(t)^2 - t$  は  $(\mathcal{F}_t)$ -マルチンゲール .
- (iii)  $E\left[e^{B(t)-\frac{t}{2}} | \mathcal{F}_s\right] = e^{B(s)-\frac{s}{2}}$ , つまり  $M_t = e^{B(t)-\frac{t}{2}}$  は  $(\mathcal{F}_t)$ -マルチンゲール .

練習問題 3.1 マルチンゲールの定義に従い,  $(\mathcal{F}_t)$ -Brown 運動の定義を用いて定理 3.1 を証明せよ .

### 3.2 階段過程の確率積分

定義 3.3  $(\Omega, \mathcal{F}, P, (\mathcal{F}_t))$  に対し,  $(\mathcal{F}_t)$ -適合な確率過程  $\Phi(t)$  が階段型とは, 自然数  $n$ ,  $0 = t_0 < t_1 < \dots < t_n < \infty$  と有界な確率変数列  $\xi_0, \xi_1, \dots, \xi_n$  があって,

- (i) 各  $\xi_j$  ( $1 \leq j \leq n$ ) は  $\mathcal{F}_{t_{j-1}}$ -可測,  $\xi_0$  は  $\mathcal{F}_0$ -可測,
- (ii)  $\Phi(t) = 1_{\{0\}}(t)\xi_0 + \sum_{j=1}^n 1_{(t_{j-1}, t_j]}(t)\xi_j$

の 2 条件をみたすときにいう .

階段型確率過程の全体を  $\mathcal{L}_0$  で表す .

定義 3.4  $\Phi \in \mathcal{L}_0$  に対して連続な確率過程  $I(\Phi)(t)$  を

$$I(\Phi)(t) = \sum_{j=1}^n \xi_j (B(t \wedge t_j) - B(t \wedge t_{j-1})) \quad t \geq 0 \quad (3.3)$$

によって与える。ただし,  $t \wedge s = \min\{s, t\}$  と約束する。  $I(\Phi)(t)$  を  $\Phi$  の Brown 運動による確率積分とよび,

$$\int_0^t \Phi(s)dB(s)$$

とも書く。

**定理 3.2** (確率積分の性質)

- (i) ( $\mathcal{F}_t$ -適合性) 任意の  $t \in [0, \infty)$  に対して  $I(\Phi)(t)$  は  $\mathcal{F}_t$ -可測
- (ii) (連続性)  $I(\Phi)(t)$  は  $t$  について連続 *a.s.*
- (iii) (線形性)

$$I(\alpha\Phi + \beta\Psi)(t) = \alpha I(\Phi)(t) + \beta I(\Psi)(t) \quad a.s.$$

- (iv) (マルチンゲール性)

$$E(I(\Phi)(t)|\mathcal{F}_s) = I(\Phi)(s) \quad a.s.$$

- (v) (等長性)

$$E((I(\Phi)(t))^2) = E \int_0^t \Phi(s)^2 ds$$

さらに一般に  $t > v$  のとき,

$$E[(I(\Phi)(t))^2 - E \int_0^t \Phi(s)^2 ds | \mathcal{F}_v] = I(\Phi)(v)^2 - E \int_0^v \Phi(s)^2 ds$$

**練習問題 3.2** ( $\mathcal{F}_t$ -Brown 運動の性質を用いて上の定理 3.2 を証明せよ。

### 3.3 空間 $\mathcal{L}^2$ の元の確率積分

**定義 3.5** 確率過程  $\Phi = \Phi(t, \omega)$  が  $(\mathcal{F}_t)$ -発展的可測であるとは, 任意の  $t \geq 0$  に対して,  $\Phi(s, \omega)$  を  $(s, \omega) \in [0, t] \times \Omega$  の関数と見たとき  $\mathcal{B}([0, t]) \times \mathcal{F}_t$ -可測となることをいう。

注意 階段型過程は  $\mathcal{F}_t$ -発展的可測 . また , 一般に  $\mathcal{F}_t$ -発展的可測ならば ,  $\mathcal{F}_t$ -適合 . 逆に , 連続な  $\mathcal{F}_t$ -適合過程は  $\mathcal{F}_t$ -発展的可測 .

なぜなら ,  $\Phi(t, \omega) = 1_{\{0\}}(t)\xi_0 + \sum_{j=1}^n 1_{(t_{j-1}, t_j]}(t)\xi_j$  に対して ,

$$\begin{aligned} & \{(s, \omega) \in [0, t] \times \omega; \Phi(s, \omega) \leq a\} \\ &= \{0\} \times \{\omega \in \Omega; \xi_0(\omega) \leq a\} \cup \bigcup_{j=1}^n (t_{j-1}, t_j] \times \{\omega \in \Omega; \xi_j(\omega) \leq a\} \end{aligned}$$

となるので , 階段型過程の発展的可測性がわかる .

$\Phi$  が発展的可測ならば , Fubini の定理により ,  $\mathcal{B}[0, t] \times \mathcal{F}_t$ -可測な  $\Phi(s, \omega)$  の  $s = t$  での切り口として  $\Phi(t, \omega)$  は  $\mathcal{F}_t$ -可測 . したがって  $\Phi$  は  $\mathcal{F}_t$ -適合 .

$\Phi$  が連続な  $\mathcal{F}_t$ -適合過程なら , 階段型過程で各点近似できる . よって ,  $\Phi$  は上の事から  $\mathcal{F}_t$ -発展的可測 .

定義 3.6 (空間  $\mathcal{L}^2$ )  $\mathcal{F}_t$ -発展的可測な確率過程  $\Phi$  で , 任意の  $T > 0$  に対して

$$E \left[ \int_0^T |\Phi(t, \omega)|^2 ds \right] < \infty \quad (3.4)$$

となるものの全体を  $\mathcal{L}^2$  と書く .  $\Phi \in \mathcal{L}^2$  に対して ,

$$\|\Phi\|_T := \left\{ E \left[ \int_0^T |\Phi(t, \omega)|^2 ds \right] \right\}^{\frac{1}{2}} \quad (3.5)$$

とおき ,  $\Phi, \Psi \in \mathcal{L}^2$  に対して

$$\|\Phi - \Psi\| := \sum_{N=0}^{\infty} 2^{-N} (\|\Phi - \Psi\| \wedge 1) \quad (3.6)$$

とおく .  $\|\Phi - \Psi\| = 0$  のとき , 二つの確率過程は  $\mathcal{L}^2$  の元としては同一視する .

注意  $\|\cdot\|$  により  $\mathcal{L}^2$  は完備な距離空間となる . それは ,  $\mathcal{L}_T^2$  を  $\|\cdot\|_T$  をノルムとするヒルベルト空間と思うと , その完備性から , ここでの極限  $X(t)$  が  $\mathcal{L}^2$  のコーシー列に対して定まる . この極限は  $T$  について consistent .

補題 3.3  $\mathcal{L}_0$  は  $\mathcal{L}^2$  の中で dense .

証明は次回